



【創刊記念特集】

京都発

「車いす和文化おもてなし隊」デビュー！

バリコレ2017 in 京都

「バリコレとは？」
生きづらさを抱えるすべてのマイノリティのためのバリアフリー・バラエティー「バリコレ2017」が開催されました。会場内の京都市ブースの一角には、車いす和文化おもてなし隊による茶の湯のおもてなしコーナーがおめえ。艶やかな着物に身を包んだメンバーが、この日のために稽古を重ねたテーブルで行う盆略点前による抹茶とお菓子のおもてなしを行いました。

京都市ブースで、来場者をおもてなし。
10月28日、台風接近に伴うあいにくの雨空の下、岡崎公園の特設野外ステージ(平安神宮前)で第3回を数えるバリコアフリー・ファッションの祭典「バリコレ2017」が開催されました。会場内の京都市ブースの一角には、車いす和文化おもてなし隊による茶の湯のおもてなしコーナーがおめえ。艶やかな着物に身を包んだメンバーが、この日のために稽古を重ねたテーブルで行う盆略点前による抹茶とお菓子のおもてなしを行いました。

「車いす和文化おもてなし隊」の記念すべき創刊号で、本紙が注目したのは「車いす和文化おもてなし隊」京都で誕生した車いすユーザーによるおもてなしチームは画期的な試み。メンバーたちの活動の様子をレポートします。



個性が光る4つの京都市ブース

この日、会場内に設置された京都市ブースは、「車いす和文化おもてなし隊」によるブースを始め、「京都市ユニバーサルツーリズム・コンシェルジュ」による観光案内ブース、障がい者アートの振興をめざす「京都市天才アートKYOTO」による作品展示ブース、パラリンピック毎日紹介ブースの4つ。雨の中、たくさんの方々が足を運んでいました。



リバラ(NHK Eテレ・日曜夜7時)のスペシャル企画として生まれたバリコアフリー・ファッションの祭典。今年で3回目。全国から集まったデザイナーが最先端のユニバーサル衣装を発表し、障がい者を含む様々なマイノリティのモデルたちがランウェイに登場。これまでの「障がい」「マイノリティ」の概念を打ち壊し、

「マイノリティだからこそ、カッコいい！」のイメージを生み出す斬新な振し。



(写真左から)「車いす和文化おもてなし隊」の企画責任者で、メンバーにお茶前を指導した京都観光おもてなし大使の田中賀鶴代さん、上田菜々さん(寄贈性新茶陶産)、門川大京都市長、東濱明子さん(習性まひ)、北井里弥さん(肢体不自由)



美しい所作でお茶前を披露

ゆづり一服を嗜む市長

「無事に役目を果たせて、ほっとしています(笑)」。「緊張しましたが、とても楽しかったです」「イベント当日も頑張ります」。笑顔で語るメンバーを見て、本番でのおもてなしがますます楽しくなりました。



濱桃子さんが参加しました。3人が艶やかな着物姿で登場すると会場の雰囲気はいっそう華やかに。活動報告の後、本番さながらにテーブルを用いた盆略点前で門川市長にお茶を振る舞いました。3人は落ち着いて堂々とお茶前を披露し、一服を楽しんだ門川市長からは「おいしい」とのコメントが。会話は弾み、お茶前を通して一気にお互いの距離が近くなったように感じます。

MESSAGE



京都市長
門川大作

「バリコレ2017」でのブース出展を前に、華麗な着物姿の「車いす和文化おもてなし隊」の皆さん、企画責任者で京都観光おもてなし大使の田中賀鶴代さんをはじめ、関係者の皆様に市役所にお越しいただきました。テーブルでできる茶湯の盆略点前で、お茶菓子とお抹茶を頂戴し、おもてなしに感激！素晴らしい活動を支える関係者の皆様に心から敬意を表します。障害のある人もない人も、全ての人がつながりを持ち、支え合うまちづくりを一層進めていく決意を新たにしました。



【車いす和文化おもてなし隊とは】
和文の発信とバリアフリー社会の実現を目指し、今年9月に結成。メンバーは全国から公募し、車いすでもできる茶湯「盆略点前」の作法をはじめ、日本の文化や歴史などを幅広く学びながら「和のおもてなし」を身につけます。